

Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 (12)か月

2. 研修プログラム

「新人看護職員研修ガイドライン」に基づく新人看護職員研修について記入して下さい。なお、新人保健師研修はその該当箇所がわかるよう記載して下さい。

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※3)	時間数	研修内容
		講義	演習			
4月	心電図12誘導の実際	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 検査室	1時間	心電図12誘導の装着の仕方を学ぶ。心電図から正常・異常を読み取る。
	体位変換と移乗介助	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	デモンストレーションを行い臥位患者の体位変換方法と移乗介助方法を修得する。
	AEDと救急蘇生法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	講義を通して救急救命処置の基本を学ぶ。
	AEDと救急蘇生法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 健康管理センター	1時間	実技を通して基本的な救急蘇生法を学ぶ。
5月	プライマリーナースの役割～私の患者さん・私の○○看護師さん～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	講義を通して、倫理的配慮ができる、相手を尊重しプライマリーナースとしての役割を確認する。
6月	接遇～社会人としてのマナー～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	講義・ロールプレイを通して、病院の規則を守り、新人職員として学ぶ姿勢を身につける。
	在宅療養における保健指導(保健師)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	訪問看護活動及び在宅療養を理解し、保健師活動に関する技術を学ぶ。
7月	グリーフケア～看護感を通してエンゼルケアを学ぶ～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	エンゼルケアの実際・事例から患者とその家族の最後の関わりを通して学ぶ。
	健康管理センターにおける保健指導(保健師)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	健康診断とその後の保健指導の実際を学び、保健師としての関わりを学ぶ。
	健康管理センターの業務(保健師)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 健康管理センター	4時間	健診業務と保健指導の実際を見学する。
	訪問看護(保健師)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 患者宅	8時間	訪問看護に同行し、対象者を理解し、社会資源の活用、関係機関・医師との連携を理解する。
8月	チームメンバーの役割と行動～報・連・相が上手にできるコツを学ぼう～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	チームメンバーの役割を通し、報告・連絡・相談する必要性・意義を学ぶ。
9月	コミュニケーション～アサーティブコミュニケーションとは～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	傾聴・共感的態度とアサーティブコミュニケーションを学ぶ。
10月	危険予知トレーニング(KYT)～リスクの感性を高めよう～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	日々の職場の環境に潜んでいる危険を危険予知トレーニング(KYT)から学ぶ。
11月	看護記録について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	記録委員会の研修会に参加し看護記録監査の結果から事例を通して記録内容とパス状況を学ぶ。
12月	フィジカルアセスメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	解剖学的病態生理から疾患を学ぶ。
1月	フィジカルアセスメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	聴診器で肺の音を聴き、アセスメント能力を鍛える。
2月	まとめ～1年間を振り返って、努力した自分を褒めよう～	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	部署外 会議室	1時間	1年間の看護実践・体験をレポートにまとめを看護観を深める。レポートを発表。

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

看護局に新人看護職員卒後臨床研修管理委員会を設置。
専任の研修責任者1名(セカンドレベル修了者、新人が配置されない部署の者)、3病棟、手術室、保健在宅室に教育担当者1~2名(ファーストレベル修了者)を配置。
部署に配属された新人看護職員を担当するプリセプター(卒後3年目以上の看護師)制度をとっている。
研修管理委員会(研修責任者・教育担当者で組織)を月1回開催し、研修中の進捗状況を把握し研修の調整を行う。

4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職員に必要な知識・技術の修得方法

すべての新人が、ICUに準ずる病棟(外科系病棟)2週間、手術室1週間、内科系病棟3週間のローテーション研修を体験する。

5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

研修管理委員会で進捗状況を把握し、未経験項目が体験できるように教育担当者、病棟科長、当直者とも連携を取り、情報提供をしてもらう。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価時期(自由にご記入ください)

厚生労働省の新人看護職員研修ガイドラインに基づいて策定された、社会保険病院新人看護職員基本技術の到達目標137項目(環境調整・食事援助・排泄援助・活動休息援助・清潔衣生活援助・呼吸環境を整える援助・創傷管理・与薬・救命救急処置・症状生体機能管理・感染防止・安全管理・安楽確保・逝去時の援助・記録報告看護計画・指導教育・倫理的配慮・態度)について、入職時、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年経過時に評価。

2. 評価者(自由にご記入ください)

新人看護職員本人、プリセプター、教育担当者

3. 評価方法(自由にご記入ください)

社会保険病院新人看護職員基本技術の到達目標137項目のチェックリストに沿って
A:できた、B:指導の下にできた、C:努力を要する、
の3段階で評価する。
保健師は厚生労働省の技術指導の例～保健師編～の【家庭訪問のチェックリスト】【地域診断にお
けるアセスメントのチェックリスト】に沿って【健康管理センターのチェックリスト】【訪問看護のチェッ
クリスト】を作成し、
◎:一人のできる、○:支援があればできる、
で評価した。

IV. 指導者等の育成に関すること

1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

研修を5回実施。
3月:1回目、プリセプターの役割と心構え、2回目、新人看護職員基本技術の到達目標(137項
目)の評価方法、夜勤導入時の基準内容、各病棟での新人技術マニュアルの活用と指導計画の
確認
5月:指導者のメンタルヘルス
6月:指導方法の3ステップ
9月:私のコミュニケーションスタイルを知る

2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

3月:新人研修管理委員会の目的と新人看護職員卒後臨床研修の説明会1回
5月:指導者のメンタルヘルス(社会心理学・行動主義心理学・感情の心理学を学び後輩指導に
生かす)の研修会を実施。
更に1回/月進捗状況を含めた情報交換と支援の実施。

V. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

今年度から、新人保健師を対象に健康管理センター・保健在宅室(訪問看護)の保健師業務と
必要能力を学んでもらうため講義、研修を取り入れたこと。
購入したAEDトレーナーを使用して新人の配属部署ごとに実技訓練を行ったこと。
集合教育で学んだ知識を活かすために各部署でのOJTも連動して実施したこと。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

新人研修管理委員会で新人看護職員の進捗度を把握し、部署の看護科長とも連携を取りローテーション研修を実施し、新人看護職員は研修プログラムに沿って、新人看護職員基本技術の到達目標137項目を経験することができた。保健師は健康管理センター、訪問看護の業務や保健師の役割を学び病棟での患者指導の重要性を学ぶことができた。